

結城市都市計画マスタープランを 改定しました

計画の位置づけと
役割・改定の目的など

都市計画マスタープランは、上位計画である『結城市総合計画』の分野別計画として、都市計画に関する部分を補完・充実し、実現を図るための計画であり、都市計画“に関する本市の諸計画・事業を誘導する総合的な指針です。

平成15年3月の策定から十余年が経過し、社会経済情勢が大きく変化していることから、本市が将来にわたって持続可能で活力ある地域づくりを進められるよう、旧プランとの継続性を考慮しつつ、改定をしました。改定作業にあたっては、地区別懇談会の開催やパブリックコメントの実施により、市民の皆さんの意見をいただきましたが、検討を進めました。



目指すべき将来都市像

誇れる歴史を大切に 安全・安心で
魅力的な生活の舞台づくり

全体構想

全体構想は、都市づくりの基本理念や目指すべき将来都市像を明らかにし、土地利用や防災などのテーマ別に都市づくりの方針を定めています。

都市づくりの基本理念

- 快適で活力ある都市づくり 土地利用 / 道路・交通ネットワーク
- 魅力と個性ある都市づくり 水と緑 / 景観
- 安全・安心な都市づくり 防災 / 河川・供給処理施設
- 地域・協働の都市づくり 公共公益施設 / 市民協働

将来の都市空間構造

1) 広域

県西ゾーンの生活拠点都市としての位置づけを踏まえ、首都圏中央連絡自動車道や筑西幹線道路などの整備効果を活かしながら、周辺都市などとの交流促進や連携強化など、広域的なネットワークを形成します。

2) 拠点

都市の発展や地域の活性化を目指し、JR結城駅周辺や工業団地、地域の核となる施設や史跡などを拠点として位置づけ、地域の特性を踏まえながら、効果的な活用を図ります。

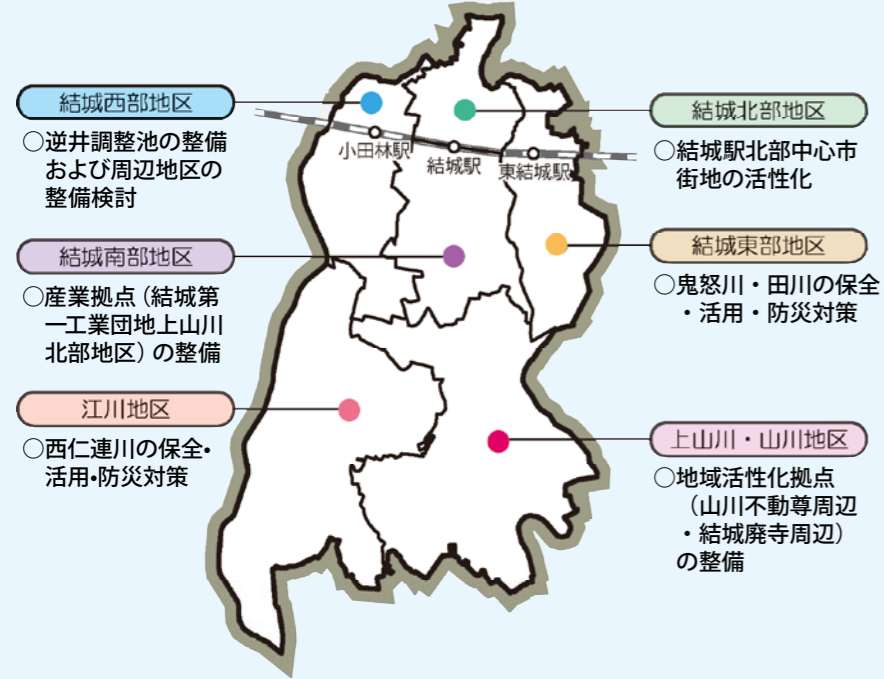
3) 軸・ネットワーク

都市間・地域間の連携を強化し、特色ある一体的な都市空間構造を形成するため、景観などに配慮しながら、骨格的交通網や河川などを軸・ネットワークとして位置づけ、交流ネットワークの形成を図ります。

4) ゾーン（土地利用）

都市の健全な成長と良好な環境の形成に向けて、都市と農村の共存に留意しながら、各地域特性に応じた土地利用を推進し、適切な都市機能の配置と集積に努めます。

都市計画マスタープランにおける地区区分および主な重点プロジェクト 地域別構想



地域別構想は、都市レベルで立案した全体構想を、現況特性や住民意向などを踏まえながら、より即地的かつ詳細に明らかにし、その実現性を高めていくものです。

本プランでは、結城北部、結城南部、結城西部、結城東部、江川、上山川・山川の6地区に区分し、地区ごとにまちづくりの基本目標、テーマ別方針、重点プロジェクトなどを定めています。

